



学校司書の仕事

学校司書とは、学校図書館の運営を担う専門職員のことです。現在、福岡市の小中学校では、151名の学校司書の方々が働いています。

学校司書の方々は、学校図書館の運営のために、主に、学校図書館の整備と利用者サービスを担当します。メディア（情報を記録・伝達・保管するための手段や媒体全般）の専門家として、学校図書館メディアの発注と受入、分類整理・配架、貸出・返却、情報サービス、読書案内、広報活動などを行い、学校図書館メディアと児童生徒・教職員をつなぐ仕事をしています。また、児童生徒が学校図書館を活用する学習を行う時には、学習活動が円滑に行われるように、授業を行う先生や司書教諭と協力し、学習の支援も行っています。

<整備に関すること>

学校図書館メディアの組織化
(分類・目録作成・ラベル貼り・配架)

調査統計・記録の作成
展示・掲示の作成・管理
図書館施設・設備の維持・管理

<サービスに関すること>

学校図書館メディアの提供
レファレンスサービス
情報の紹介、資料リストの作成
読書案内
広報活動
ホームページの作成・更新
機器の利用の支援
学習活動の支援

学校図書館には、今日、児童生徒の主体的な学び（探究的な学び）を支え、情報活用能力の育成や豊かな人間性の育成のために、「読書」・「学習」・「情報」の3つのセンター機能や児童生徒の居場所としての機能、さらには、教員のサポートの機能も求められています。

これらの機能の充実のため、学校司書の方々には日々努力していただいています。学校司書の方々の努力により、学校からは「図書館が整備され利用しやすくなりました。」「児童生徒の利用が増えました。」などの声を聞くことが多くなりました。

今後も、学校図書館の機能が向上し、子どもの読書活動の推進が図られることを期待しています。

マルチメディアデイジー図書

マルチメディアデイジー（DAISY）図書とは、音声、テキスト、画像を同時に再生できるデジタル録音図書です。文字の拡大や色・背景色の変更、読み上げスピードの調整が可能で、読んでいる箇所を視覚的に追えるようになっているため、発達障がい（自閉スペクトラム症、学習障がい、注意欠如多動症等）、知的障がい、肢体不自由、視覚障がい等のために、通常の書籍を読むことが困難な方や年齢と共に読書が困難となった方々に適したバリアフリーな電子書籍です。

近年、多くの団体から、インターネット上に無償で、公開、提供されています。公益財団法人伊藤忠記念財団や(公財)日本障害者リハビリテーション協会情報センターのHPでは、児童用の図書も多いようです。一度、ご覧になってみてはいかがでしょうか。

図書館で『TRPGをやってみる』（第10回） 3月22日（日）開催



TRPGとは、テーブルトーク・ロールプレイングゲームの略で、ゲーム機等のコンピュータを使わずに、紙やペン、サイコロなどの道具を用いて、参加者の会話と専用のルールブックに記載されたルールに従って遊ぶ対話型のゲームです。

参加者が会話をしながら架空の世界を演出し、登場人物を演じ、共に課題を解決しながら物語を作り上げていく卓上の遊びです。

福岡市総合図書館では、中学・高校生を対象としたイベントを定期的で開催しています。今回は、3月22日（日）の開催です。興味のある方は、参加してみても、いかがでしょうか。詳しくは、総合図書館のホームページをご覧ください。

公益社団法人 読書推進協議会では、毎年、「若い人へ送る読書のすすめ」というリーフレットを発行しています。

その中に、成人・卒業—新たな一歩を踏み出したフレッシュなあなたにと題し、

「若い人たちが本を読まなくなったといわれて、久しくなります。若い人たちが本を読まなくなったという、年上の人たちのことばは、若いときにこそ本を読むべきであったという、後悔のことばでもあります。」

あなたのみずみずしい感性、柔軟な思考、好奇心、そうしたものを豊かに持ちあわせている、〈若いときに〉読書をするとは、あとの生き方に必ず大きな実りをもたらします。あなたが読書を日常のなにげない習慣にすれば思いもかけない幸せな「本との出会い」が、きっとやってくるにちがいません。」

とメッセージが書かれていました。

「読書をするとは、あとの生き方に必ず大きな実りをもたらします。」という言葉子ども達に、私なりの方法で伝えていくには、どうしたらよいかを考えています。〈須藤〉



3月14日 数学の日

公益財団法人・日本数学検定協会が1997年に制定。日付は円周率(π)の近似値3.14にちなんだものです。数学を生涯学習として、子どもから大人まで楽しめるものに発展させようと制定されました。

また、この日は、ドイツ生まれの理論物理学者アルベルト・アインシュタイン(1879~1955年)の誕生日でもあります。

3月31日

教育基本法・学校教育法公布記念日

1947年(昭和22年)のこの日、「教育基本法」と「学校教育法」が公布。教育基本法は、日本の教育に関する根本的・基礎的な法律です。また、学校教育法は、日本の学校教育制度の根幹を定める法律となっており、この法律によって、小学校は6年、中学校と高校は3年、大学は4年となっています。

高村 光太郎

(1883.3.13~1956.4.2)

東京都生まれ。詩人、歌人、彫刻家、画家。日本を代表する彫刻家であり画家でしたが、今日では『道程』『智恵子抄』などの詩集も著名で、教科書にも多くの作品が掲載されており、近現代を代表する詩人として位置づけられています。その他、能書家としても知られています。また、父親は彫刻家で有名な高村光雲です。

小手鞠 るい

(1956.3.17~)

岡山県生まれ。小説家、詩人、エッセイスト。1982年に詩人として出発しましたが、1995年に刊行された『玉手箱』で、小説家としてデビューしました。小説の他に、絵本の原作、エッセイ、児童書なども手がけています。『ルウとリンデン 旅とおるすばん』『心の森』『ある晴れた夏の朝』などの受賞作品があります。また、4年生の国語『スワンレイクのほとり』の作者としても知られています。

田辺 聖子

(1928.3.27~2019.6.6)

大阪府生まれ。小説家、随筆家。幼少時は古典文学に親しみ、多くの少女小説を愛読したそうです。1956年『虹』で大阪市民文芸賞を受賞してからは本格的な作家活動に入り、恋愛をテーマにした小説や大阪弁を用いた一種の方言文学の制作に取り組みました。代表作として『感傷旅行』『新源氏物語』『姥ざかり』『ジョゼと虎と魚たち』が有名です。

かこ さとし

(1926.3.31~2018.5.2)

福井県生まれ。絵本作家、児童文学者、工学博士、技術士(化学)。『だるまちゃん』シリーズなどのユーモラスな絵本から、『かわ』『たいふう』などの科学絵本に至るまで、幅広い作品を残しています。また、『たなばた』における中部地方の伝統行事の描写や、『だるまちゃん』シリーズにおける子どもの遊びの紹介など、失われていく昔ながらの日本の文化を描き留めた作品も多いです。

図書館員のひみつの本棚 第 238 回

今月は、中国の昔話えほんを紹介します。

『こいぬをつれたかりうど』 牧野 夏子／再話, 佐々木 マキ／絵

福音館書店 2024 年 1000 円

<お勧め年齢>

乳幼児★☆☆ 小低学年★★★ 小中学年★★☆ 小高学年★☆☆ 中学生☆☆☆

高校☆☆☆ 一般☆☆☆

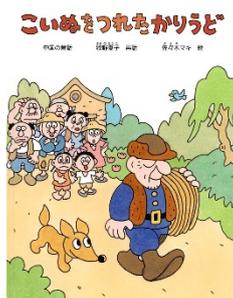
(★が多い年齢の子どもにお勧めです)

<本の紹介>

あるところに、やせて年老いた狩人がいました。この狩人が狩りに使うのは、縄と子犬。たったこれだけで、必ずどんな獲物も持って帰ってきます。村に下りてきて人や牛を襲う、とらの退治を任された狩人が狩りに使うのは、やっぱり縄と子犬だけ。首をかしげる村人たちに見送られ、とらのいる山に出かけた狩人は、おそろしいとらを退治することができるのでしょうか？！

<子どもに 手渡す時のポイント>

中国で語り継がれている昔話です。狩りのひみつはごま油。これをたっぷり子犬に飲ませ、体中をごま油で洗ってやるので、子犬からはごま油の香ばしい香りがぷんぷん、体はつやつや。狩人と子犬の連携プレーで、見事にとらを捕まえる痛快なおはなしをぜひお子さんと一緒に楽しんで下さい。昔話の面白さをダイレクトに味わうことができるでしょう。はっきりした色使いの絵とすっきりしたストーリーは読み聞かせにもおすすめです。日本の昔話とはまた違った魅力のある外国の昔話を読み広げるきっかけにもなる楽しい一冊です。



このコーナーで紹介した本は、お近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ、手にとってみてください。